

○多胡 雅毅<sup>1</sup>、鋪野 紀好<sup>2</sup>、志水 太郎<sup>3</sup>、佐々木 陽典<sup>4</sup>、和足 孝之<sup>5</sup>、高橋 宏瑞<sup>6</sup>、横瀬 允史<sup>7</sup>、  
江副 優彦<sup>8</sup>、原田 愛子<sup>9</sup>、石瀬 裕子<sup>10</sup>

<sup>1</sup>佐賀大学医学部附属病院 総合診療部、<sup>2</sup>千葉大学医学部附属病院 総合診療科、

<sup>3</sup>獨協医科大学 総合診療医学、<sup>4</sup>東邦大学医療センター大森病院 総合診療・急病センター、

<sup>5</sup>京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター、<sup>6</sup>順天堂大学医学部 総合診療科、

<sup>7</sup>獨協医科大学病院 総合診療科、<sup>8</sup>社会医療法人祐愛会織田病院 救急科/総合診療、

<sup>9</sup>飯南町立飯南病院 総合診療科、<sup>10</sup>静岡県立静岡がんセンター 感染症内科

日本病院総合診療医学会が発足して以降、これまでに多数の学会認定医および指導医が誕生した。また 2018 年の総合診療専門医制度の開始を受け、本学会は 2021 年 7 月に日本プライマリ・ケア連合学会と共に総合診療専門医取得後のキャリアに関する 2 学会合同声明を発表し、病院総合診療専門医制度を整備した。去る 2023 年 11 月には、ついに第 1 回病院総合診療専門医試験を実施し、我が国初の病院総合診療専門医 (Fellow of Hospital General Medicine, FHGM) が誕生した。

本企画は日本病院総合診療医学会が新設した専門医・専攻医部会による企画である。前述のように第一期の FHGM が誕生したものの、その数はまだ少数にとどまっており、専門研修や専門医試験に関する情報が不足している。また FHGM の魅力についても十分な周知ができておらず、それらが専攻医の専門研修のモチベーションの低下と研修ドロップアウトにつながる可能性がある。このようなリスクを軽減するためにも、実際に専門医資格を取得した医師の経験は非常に貴重である。本企画では専門医および専攻医の間で合格の経験と制度に関する情報を共有し、次世代の FHGM を目指す若手医師をサポートすることを目的とする。企画内では FHGM が実際に登壇し、研修・試験に関する情報を提供し、また専攻医からの質問にも回答する。さらに専門医制度の運営委員を担当する医師も登壇し、適宜制度についての補足を行う予定である。本企画が FHGM 取得を目指す若手医師の一助となれば幸いである。

---